

住民協ひろば

久木小学校区住民自治協議会 広報 <特別号>

<編集・発行>

久木小学校区住民自治協議会

逗子市久木 2-1-1

・発行日：2017年10月1日

・発行部数：5500部

暮らしやすいまちを
自分たちでつくる

毎日の暮らしがより安全で快適で、安心して過ごせることが私たちの願いです。そうしたまちを作るために必要なのは「地域力」です。

この冊子は、久木小学校区の地域力を高める活動を行う「住民自治協議会」のことを地域の皆さんにお知らせするために久木小学校区内の全戸に配布します。

住民自治協議会とは
(略称：住民協)

住民協は、地域の個性や実情に応じてまちづくりを行うために導入された仕組みです。

地域に住む全ての住民や団体、地域で働く人々などで構成され、様々な地域課題について協議し、地域で連携しながら解決策を考えます。

久木小学校区では設立準備会で二年弱の活動を経て今年4月に住民自治協議会が発足しました。



(2016年12月11日開催「地域と行政の合同ワークショップ」にて)

“住民協”って、ご存知ですか？

久木小学校区の住民協が発足してから、あっという間に半年がたちました。今回の“住民協ひろば”は全戸配布の特別号です。

ところで、“住民協”って、ご存知ですか？ たしかに私たちは“住民協ひろば”を毎月発行し、周知の努力をしてきました。でも久小校区に限らず、全市内においても“住民協”が周知・理解されていないのが現状です。

そんなわけで、今回の“住民協ひろば”のコンセプトは“住民協って何？” “住民協って何をやるの？”を理解していただくための入門編です。

まずは1頁から8頁まで、ざっとお読みください。肝は住民協構成図(2頁)と部会の紹介(4,5頁)です。

◆住民協構成図

久小区住民協のあり方(住民協って何?)が明記されています。構成図をながめてイメージしてください。とくに周知・理解されていない2点について補足します。

- 1) 自治会・町内会との関係性において、住民協は自治会・町内会の屋上屋を重ねる組織ではなく、部会活動により、地域共通の問題解決にあたります。
- 2) 行政との関係性において、住民協は行政の下部組織ではなく、行政に依存することなく、互いに協力しあっていきます。

◆部会の紹介

住民協の存在価値(住民協って、何をやるの)はこの4つの部会にあります。構成図にあるように、すべての情報とエネルギーが4つの部会に集約されます。各部会会員が部会長のもとで目指すものを共有し、具体的な活動プランを提示されることを期待します。

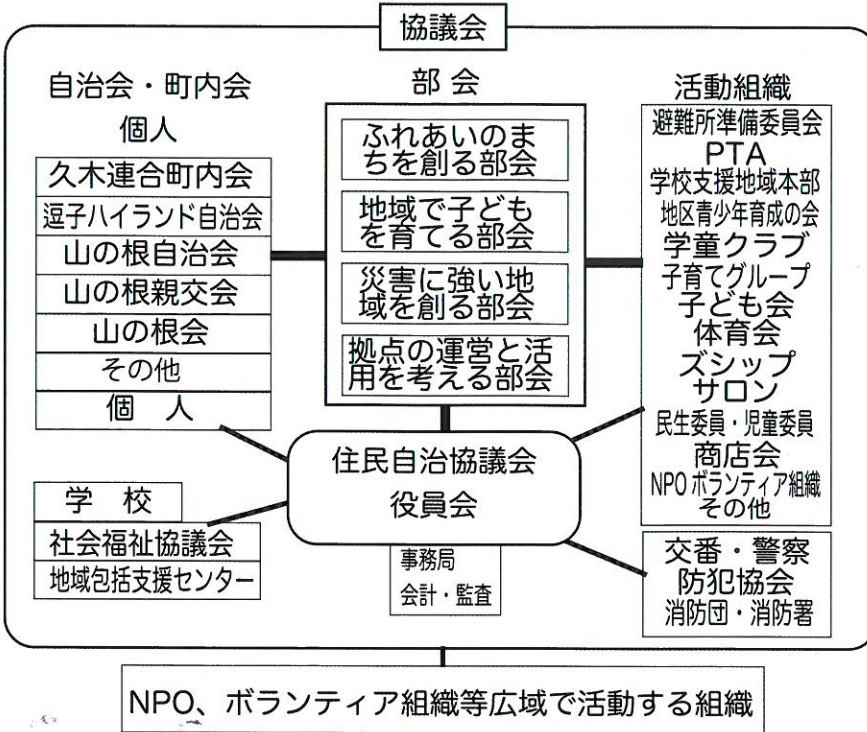
そこで住民協の皆様へお願い事です。この部会活動に是非にご参加ください。

★毎月・第1週土曜日 / 午後2時30分～3時30分 / 久木会館

*原則、役員会終了後に実施

多くの皆様のご支援により、久小区住民協は何かを構築していきます。よろしくお願いたします。

住民協構成図



役員一覧

会長	田倉由男	山の根
副会長	小林寿志	久木
//	大森啓亘	ハイランド
//	龍村敦子	山の根
//	高野安代	山の根
//	森田宗一	山の根
理事	勝山吉久	久木
//	山崎徳次郎	ハイランド
//	松岡富春	久木
//	山下隆文	山の根
//	井上亮子	久木
//	森戸久朝	久木
事務局長	鈴木為之	山の根
書記	石井和夫	久木
会計	関恵梨子	久木
監査	上泉秀俊	久木
//	仲西恒雄	山の根



久木小学校区住民協は各地区で活動する自治会や組織、個人をつなげ、支えながら、部会の活動を主として取り組む組織です。

- 1 住民協は、地域に存在する色々な組織や住民が話し合える場を提供し、住民相互の交流と親睦及び啓発を図ります。そして安心・安全な地域づくりに貢献します。(規約第2条・目的)
- 2 住民協は、組織や住民を下から支え、活性化に貢献し活動を支援します。
- 3 特に、日常から良い隣人関係を作り災害時に助け合える、向こう三軒両隣の「互近助」関係の中心となる自治会・町内会の活動をサポートします。
- 4 それぞれの地域の問題は、それぞれの地域で活動する自治会・町内会を始めとした団体や個人が問題解決に当たります。
- 5 自治会・町内会や関係する活動組織、個人が協働して部会を作り、地域共通の課題解決に当たります。
- 6 必要に応じて、行政や専門機関との調整の窓口になります。
- 7 個人が会員となり活動に参加することができます。(規約第10条・会員の資格)

住民協の運営について

会議

毎月第一土曜日（原則）、久木会館にて開催します。

- ・13:30～14:30 定例役員会（時間延長あり）
- ・原則、役員会終了後に部会を実施

*部会の開催については役員会ご案内で連絡します。

広報

毎月「住民協ひろば」を発行します。

上記会議の内容やお知らせ、地域のイベント情報などを掲載します。広報活動を通して情報共有を図っていきます。

会員

随時募集。

会員登録をご希望の方は住民協事務局にお申し出ください。
会員は総会で議決権を有し、広報等の情報が提供されます。

部会

四つの部会でスタートしました。

久木住民協の活動は主に部会を通して行います。部会の活動は構成員（地域住民）はどなたでも参加することが可能です。今後、必要に応じて新しい部会を設置することもできます。

会員情報

逗子ハイランド自治会、久木連合町内会、山の根親交会、山の根自治会、山の根会、久木小学校、久木中学校、久木小学校PTA、久木中学校PTA、久木小学校学校支援地域本部、久木中学校学校支援地域本部、聖和学院、双葉保育園、ずっこあおぞら学童クラブ、久木小学校区避難所準備委員会、地域防犯連絡所協議会山の根ブロック、同久木ブロック、同逗子ハイランドブロック、久木子ども会連合会、久木体育会、山の根体育会、久木地区青少年育成推進の会、サロン久木、ズシップ連合会ハイランドブロック、同山の根ブロック、同久木ブロック、若宮会、まちのこそだち久木、名越里山虹の会、逗子市社会福祉協議会、逗葉保護司会、西部民生委員児童委員協議会久木地区、同逗子ハイランド地区、中部民生委員児童委員協議会山の根地区、久木商栄会、逗子ハイランド商店会、逗子清寿苑、メディカルホームグランダ逗子

以上 38 組織

個人の会員 29 名

合計 67 名

住民協の活動費

住民協の活動を支える資金は、市からの地域づくり交付金が充てられます。地域づくり交付金には使用する事業目的により次の3つの種類があり、それぞれ適正な使用が求められます。

1. 自主事業

住民協の運営経費、地域の判断と責任のもと自主的に実施する事業。
（定額と小学校区の数により金額が決定されます。）

2. 共通事業

全ての小学校区協議会で共通して実施する事業。

3. 選択事業

要綱の第14条に定められた範囲で、市と協議のうえ決定される事業。

予算

収入 510,000 円
支出 510,000 円

什器備品購入費
250,000 円

広報広聴費
80,000 円

本部活動費
100,000 円

部会活動費
80,000 円



部会の紹介

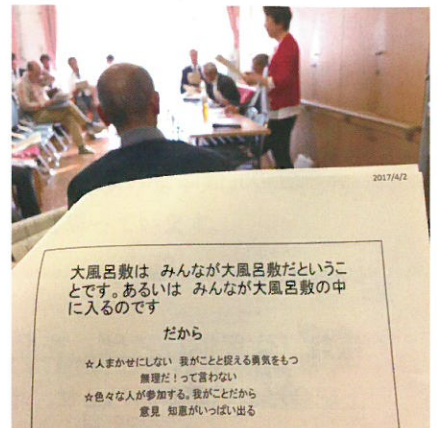
ふれあい部会 ～小さなことから大きなことまで～ 部長 龍村敦子

2年間の準備期間を経て住民協4本柱の一つが「ふれあいのまちを創る部会」略称「ふれあい部会」となりました。主に高齢者の生活を考える部会で、「大風呂敷構想・コミュニティサービスをつくろう」を部会の活動目標にかかげています。とはいいながら名前どおりの大風呂敷ですから、たどりつくまでの道のりは長くなるでしょう。

そもそも「コミュニティサービスって何?」「なぜ住民協がコミュニティサービスをつくるのか」を部会員が理解し、納得して始めなければならないのです。住民協がはじまる前には顔を合わせたこともなかった部会員の所属する自治会活動の中味はまちまちな上、足並みを揃えて「コミュニティサービス」作りにいたるまでには度重なる高齢者の現状把握勉強会が必要になります。

けれど私たち久木小学校区を住家とし、いつまでも住み続けたいと願うならば、誰にもやさしい「ふれあいのまちづくり」は住民だからこそできることなのです。

「互近助」という当て字が住民協で流行り始めています。文字通り、「近所のお互いさまの助け合い」です。一番小さいご近所の付き合いと支え合いが時代と共に希薄になる中、災害時にはこのご近所の助け合いが大切であると住民は再度目覚め始めています。「近所」の塊が沢山あって自治会町内会が構成され、その活動を共有し、さらに住民協という大きくなってこそ出来る活動へと進展していく。そこに住民が作るサービス「コミュニティサービス構想」が登場してきます。小さいことから大きなことまで動かす力は住民にあります。



子ども部会 ～親の地域活動はわが子の'ふるさと'づくり～ 部長 東浩司

「地域で子どもを育てる部会」略称「子ども部会」ができました。もともと地域の子育て支援は、小学校を中心にしてPTA や子ども会、保育園・幼稚園・中学校などの地域連携が築かれています。そうしたなかで、新たにできた組織がどのような役割を果たすべきか、どういった貢献ができるのかを考えている最中です。

試みたいことの一つに、地域の保護者ネットワークづくりがあります。地縁型組織とは別に、ご自身のテーマで地域活動をされている保護者が久木には沢山いらっしゃいます。そうした方々が「久木の仲間」として地域でつながって、子育てを楽しみあえるネットワークが形成できればいいなと考えています。

子どもは地域社会へのパスポート。独身時代や夫婦二人のときは地域と縁遠かった人も、親になると地域に関心をもつようになります。地域の安全な環境があってこそ、安心して子育てができるからです。その点、久木小学校区は登下校の見守りなど、地域の大人が子ども達としっかり関わり、子育てがしやすい街だと感じます。住民協の活動によって地域がさらに子どもに関わるようになり、久木のまち全体が子ども達のワンダーランドになれば素敵です。

そして、いまの子ども達が親になる頃に、住民協が地域の新たな子育てコミュニティになる可能性もあるのでは、と想像しています。30年先の未来も見据えながら、じっくりゆっくり進めてまいります。



減災部会 ～普段から「互近助」の関係を創り上げておこう～

部会長代行 鈴木為之

「災害に強い地域を創る会」略称「減災部会」が出来ました。非常時地域が考える「災害に強い地域」とは自助が出来ており、「互近助」がしっかりしている地域です。「互近助」とは、お互いに近くに住む人たちが助け合うこと。

過去の災害で最も頼りになったのはご近所の人たち＝向こう三軒両隣、発災時最も大切なことの1つは向こう三軒両隣の声掛け「つながり」、そして「安否確認」です。

平常時から向こう三軒両隣で声掛けできる環境を作り、平常時は見守りや生活支援等の地域福祉活動に役立て、発災時はまず「安否確認」から始まって必要な際の緊急避難、生活支援が出来る小さなコミュニティを作りましょう。小さなコミュニティの情報が集まって自治会・町内会の情報となり、地域の防災拠点（避難所）の活動につながります。

向こう三軒両隣の小さなコミュニティを作るには、皆が心のうちに持っている助け合いの気持ちを「お互いさま活動等の日常活動」を通して形にあらわすこと。そしていざの時の減災活動につなげるには、避難所訓練やその他の活動を通して、この小さなコミュニティが作り上げる関係がいかに大切かを知ることです。

互近助

非常時には
お互いに
近くの人で
助け合う



部会長 小林壽志

拠点部会 ～多くの住民の心地よい居場所を目指して～

住民自治協議会が発足し、同時に拠点部会も活動を開始しました。4年前に地域活動センター「久木会館」としてスタートし、多くの住民の皆様にご利用されてきました。今現在250団体・個人を超える利用登録となり、地域活動センターとしての存在がひろまりつつある現状です。

平成29年度は久木連合町内会が指定管理者として久木会館を運営し、住民の皆様が利用しやすい居心地のよい居場所となるように心がけ運営をおこなってきました。

また、本年住民協の拠点としても利用されるようになり、会館の活用がますます進んでいくと思われます。拠点部会として会館の活性化を検討しており、例として会館まつり（地域活動発表会）・0円食堂・映画上映・講演会・健康マージャン・カラオケなどの検討。また中期的には生活相談・コミュニティサービスの拠点となることも予想されます。これらの企画についてどれが実現できるかを話し合い、住民の居場所作りを進めていきます。

これらのことについて今後大切となるのが、多くの住民に対する広報だと思います。広報の手段としては、ホームページ・スマホの活用、住民協ひろば、町内掲示板などの利用が考えられます。これらの案を実現させるには、まだまだ検討が必要ですが、出来ることから行っていければと思っています。

久木会館は台風や大雨警報が出た時の避難所としても指定されています。地域活動センターの規模としては市内で一番大きな施設です。とても綺麗なところなのでぜひ一度はご来館いただき、多くの住民と顔馴染みになりましょう。お待ちしております。



住民協に寄せられた言葉

近所での声かけ 曾我龍一

自治会・町内会等で起きている問題点、公（国、市）はわかりません。わかっているのは地域居住者です。このまま声を出さなければどうなるでしょう。不満が残るだけでしょう。日頃から声を出し合っていれば、顔が見えて「助ける」「助けられる」関係が出来ます。当然公にも通じ対策が取られるでしょう。一人暮らし高齢者等の安否確認も自然に出来、孤立死等を防ぎ又災害発生時の安否確認も容易になるでしょう。先ずは向こう三軒両隣の声掛けを！！

サロン久木のスタッフとして 鈴木昌代

ご高齢の方や未就園児の親子の方を対象に年5回サロンを開催、10年を経過しました。人と人がつながる交流の場、顔の見える関係作りとして、手作りの季節料理を食して頂き、高齢者の踊り披露や包括支援センターの方の軽い体操などでは笑みがこぼれ、楽しいひとときを過ごしております。これからも久木小学校区の皆さまと行政にご協力を頂きながら、地域の方々笑顔で、安全安心して暮らせる社会づくりに携わっていけたらと思っています。

支え合うまちづくりに向けて 「主人公は住民」 島津明人

久木小学校区住民自治協議会が発足しました。安全で、快適で、安心して暮らせるまちづくりを行うための仕組みとこのことです。そのためには、一人ひとりがお互いに支え合う関係性が大事になってきます。住民すべてがまちづくりの主人公となり、「どんな久木にしたいのか」「どのように暮らしたいのか」といった将来図（ビジョン）を持つことが、地域力の向上により一層大切になると思います。

地域のことを伝えることから 池田亜紀

ハイランドの広報を担当することになり感じたことです。公園や桜並木の整備、高齢者や子どもの見守り、またごみの相談など、住民のために活動している方が多くいます。ですが、ほとんど知られておらず、多くの方は無関心です。「こんなことに役立っている」というのを上手に伝えることができれば、地域のことが身近に感じ、みんなできよくしていこうという協力につながると思います。

ふれあい部会への思い 木村由利子

久小校区住民協のふれあい部会に参加しています。ふれあい部会は高齢者が安心して暮らせる地域にするための活動をしています。民生委員の立場からも馴染みやすいと思いこの部会を選びました。既に高齢者の健康寿命を伸ばそうと、体操等を取り入れたカルチャースクールを開催していますが、地域でまだまだ差があります。こういう活動をもっと広げていけたらよいと思っています。

健康で住みよい地域づくり 関恵梨子

逗子市でも高齢化が進み、生活習慣病の増加が問題となり、その原因が食生活にあるとも言われます。私たち食生活改善推進員は「私たちの健康は私たちの手で」をモットーにバランスの良い食生活が送れるように地域の方々へ周知する役割を持っています。久木連合町内会では年に2回ほど料理講習会・試食会を実施しています。この活動は諸先輩から引き継いで、すでに30年近く続いています。この活動を通して、何らかの形で地域住民へ影響を与えながら、仲間との関わりの中で、教え教えられる関係で面白さを味わい、活動していくことが生きがいです。これからも、健康で住みよい地域づくりの一翼を担っていきたい。

民生委員の欠員問題への提言 高津恵一

地域に居るべき民生委員の欠員はそこで生活するうえで相談・支援を求める人々にとっては正に死活問題となります。昨年ハイランド地域で民生委員が欠員になる状況が生じた際、今後を考え自治会と民生委員がお互いに協力し合っ欠員の状況が生まれそうな時には地域を一番知り得る自治会が積極的に後任候補者を捜す努力を致してくれることとなり、民生委員推薦準備会という支援組織の立ち上げとなりました。同様の組織の誕生をこの久木小学校区内の他地域でもと祈るのみです。

山の根親交会 H.Y

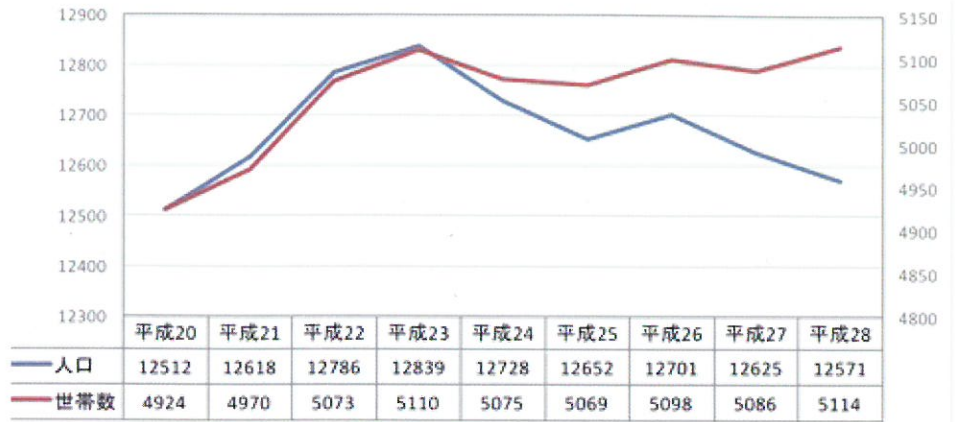
山の根3丁目地区80%の住民が店舗「ナガオカ」を唯一の出入路とする奥深い住宅地を形成しており、久木小学校から最も遠い所に位置しています。大型災害時の避難対応問題、当地区で子育て世代の増加という嬉しいニュースの一方、古くからの住民の方々の高齢化が見逃せません。これからは「住民協」内各部会での活動と方向性を意識しながら、山の根3丁目地区住民の諸問題解決への道標とし「互近助」コンセプトの輪をひろげていけたらと期待します。

久木小学校区の概要

人口・世帯数

* 逗子市ホームページ 人口統計に掲載の数字より抽出

平成 29年 4月 1日現在	人口	世帯数
合計	12,604	5,132
山の根 1丁目	709	320
山の根 2丁目	679	298
山の根 3丁目	1287	537
久木 1丁目	490	214
久木 2丁目	683	268
久木 3丁目	1065	459
久木 4丁目	1515	589
久木 5丁目	1116	434
久木 6丁目	469	190
久木 7丁目	648	252
久木 8丁目	3504	1396
久木 9丁目	440	175

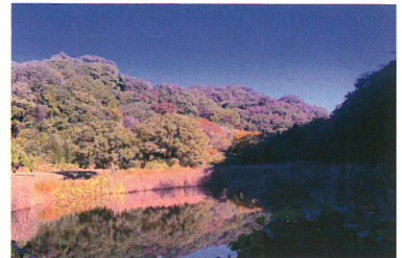


(参考) 他小学校区の世帯数 *平成 28年 10月 1日現在

逗子小学校区 7247, 沼間小学校区 5740, 池子小学校区 2525, 小坪小学校 3936

地域の特性・歴史など

久木小学校区は山の根と久木の字から成り、逗子市北西の内陸部に位置します。自然環境が豊かで、久木大池公園や名越緑地ほか松本谷戸公園など公園が複数あり、池子の森自然公園が久木ゲートから利用できるようになりました（土日祝日限定）。中心部に久木小学校・中学校、私学があります。久木神社、熊野神社、妙光寺、岩殿寺などの寺社や、久木商栄会と逗子ハイランド商店会ほか商店があります。



山の根

古墳時代ごろまでは海が山近くまで迫り、その奥に人々が住み着き「山の根八十八穴」なる横穴群を残し、その山裾を古東海道が通り沼浜まで抜けていました。江戸時代の記録によると山の根村には十九戸があり、明治の初めまで続いていました。横須賀開港、横須賀線開通により、大正の頃から田畑が別荘や軍関係者の宅地になり始め、昭和に入り線路北側に県道開通・久木トンネル開通・駅西口設置等を経て、今は県道沿い・三つの奥深い谷戸（松本谷戸・仲谷戸・山の根谷戸）には住宅が広がり、それぞれ独特の文化を形作っています。市内で最も犯罪発生が少ない地域となっています。



久木

今より 200 年前の久木はお寺が 3 つ、神社と民家 53 軒だけでした。田と山と森に囲まれており、今でもこの当時の自然は残されています。古い地名は久野谷村と柏原村。明治時代に合併された際に、「久」と「木(へん)」を合わせて「久木村」と名付けられました。

今の久木地域は学校も多くあり、地域活動も盛んで、長年にわたり多くの団体が地域行事を続けられています。新しい地域活動センターも出来、住民活動も活発です。ハイキングコースも沢山有り、自然が楽しめる地域です。



ハイランド

鎌倉と逗子の間広がる高台の住宅街で、昭和 40 年代に新しく出来た街です。久木 8 丁目に位置し、1974 年（昭和 49 年）4 月発足の逗子ハイランド自治会は現在、会員数約 1,290 世帯、人口は約 3,600 人です。住宅街中央には西友、八百屋、食事処、薬局、郵便局やみずほ銀行 A T M があり、日々の用事は住宅街内で済ませます。ただ御多分に漏れず、高齢化が進み、65 歳以上の高齢化率は約 39%と逗子市の平均 31%を大きく引き離し、市内最高齢地区でもあります。